



災害対応



地域共生活動(街路灯清掃)



コミュニケーション活動(出前授業)

2020年4月に九州電力送配電が誕生しました。 (私たちの事業概要と目指す姿)

～九州をむすび、未来へつなぐ～



九州電力送配電



ずっと先まで、明るくしたい。



送電線



変電所



配電線



内燃力発電所(離島)

はじめに

私たちは、これまで、九州電力株式会社の送配電部門として「九州のすべてのお客さまに低廉で良質な電気を安定的にお届けする」という使命を担い、お客さまの生活や経済活動を支えてまいりました。

九州においては、「台風などの自然災害を受けやすい」「離島が多い」といった地理的特徴に加え、近年では再生可能エネルギーが急拡大しています。そのような中、私たちは技術の研鑽を重ねるとともに、災害に強い送配電ネットワークの構築やその運用の改善に努めてきました。

今回、2020年4月、法的分離の実施により、九州電力送配電株式会社として、新たなスタートを切りました。

昨今、人口減少や少子高齢化社会の進行、地域間格差の拡大など、様々な社会的課題が深刻化しています。加えて、自然災害の激甚化など、これまでに経験したことがない大きな環境の変化が起こっています。

また送配電事業においては、高度経済成長期に建設された設備の高経年化への対応が必要な一方で、太陽光発電・EV・蓄電池などの多様化する分散型エネルギーの更なる活用などの社会的要請が顕在化しつつあります。

このような環境変化の中でも、これまで培ってきた技術や経験を活かして安定供給を持続していくことはもとより、送配電ネットワークの更なる高度化や新たな取組みへ挑戦することにより、地域・社会に新たなサービス・価値を提供していくという意味を込めて、この事業概要を策定しました。

私たちは九電グループの一員として、「事業運営の公平性・透明性・中立性を確保し、ネットワークを利用するすべてのお客さまが満足する低廉で良質な電気を安定的にお届けする」という九州電力送配電株式会社のミッションを果たしていくことで、引き続き、九州の発展・成長に貢献してまいります。

2020年4月

九州電力送配電株式会社
代表取締役 社長
廣 渡 健



九州電力送配電の位置づけ・役割

- 国による電力システム改革の一環として、すべての事業者（発電事業者や小売電気事業者など）が送配電ネットワークを公平に利用できるよう、電力会社の送配電部門の中立性を高める改革が進められ、2020年4月に当社は、発電・小売部門を有する九州電力から分社しました。
- 分社後も当社は、電気を送るための設備（鉄塔、送電線、変電所、電柱等）の建設・運用・管理などを担う一般送配電事業者として、これまでと変わらず、「九州のすべてのお客さまに低廉で良質な電気を安定的にお届けする」という使命を果たしていきます。

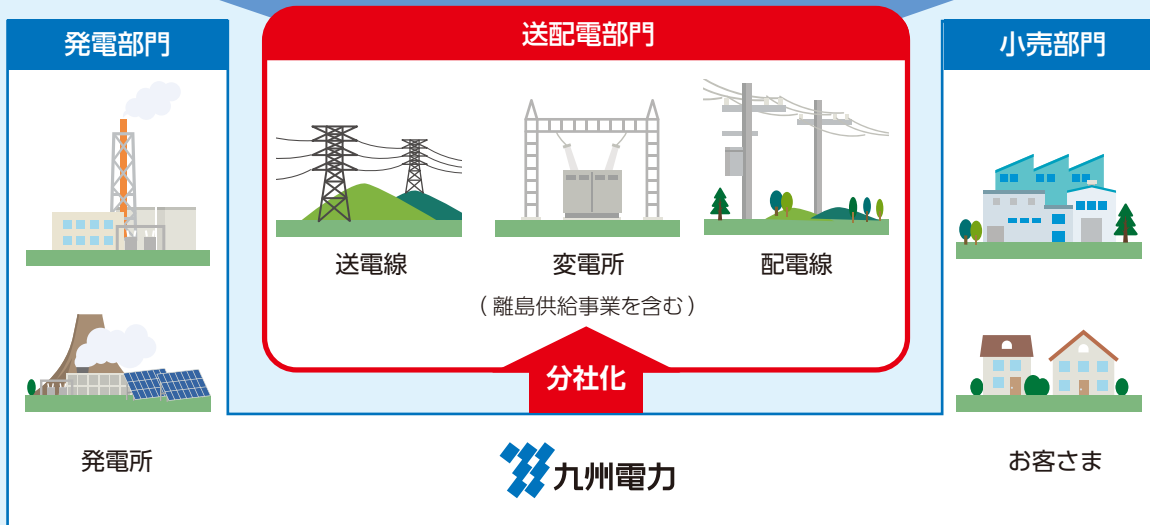


ロゴに込めた思い

「つながり」を表す円と「電気」を表すマークで構成され、安定的に電力を送り続けるという九州電力送配電の使命を表現しています。

さらに、両者を九州（Q-Shu）のQになるように配置することで、九州に根差し、九州とともに発展していくという意志を込めています。

なお、円の青色は九電グループのコーポレートカラーであり、グループの一員として一体的に地域の発展に貢献する姿勢を、電気を表すマークの黒は「何色にも染まらない」という送配電事業者としての中立的な姿勢を表しています。



contents

はじめに	1
私たちの目指す姿と重点戦略	3
戦略Ⅰ 安定供給の追求	5
戦略Ⅱ 送配電ネットワークの高度化	7
戦略Ⅲ 新たな取り組みへのチャレンジ	9
(参考) 2030年の九州と九電グループ	11

私たちの目指す姿と重点戦略

九電グループの思い

“ずっと先まで、明るくしたい。”

九州電力送配電の
ミッション

“事業運営の公平性・透明性・中立性を確保し、
ネットワークを利用するすべてのお客さまが
満足する低廉で良質な電気を安定的にお届けする”



私たちの目指す姿

九州をむすび、未来へつなぐ

SDGsへの取り組み

●九州電力送配電株式会社は、事業活動を通じ、SDGsの達成に貢献していきます。

[SDGs]

2015年に国連サミットで採択された、国際社会全体の「持続可能な開発目標」であり、2030年を期限とする17の目標です。

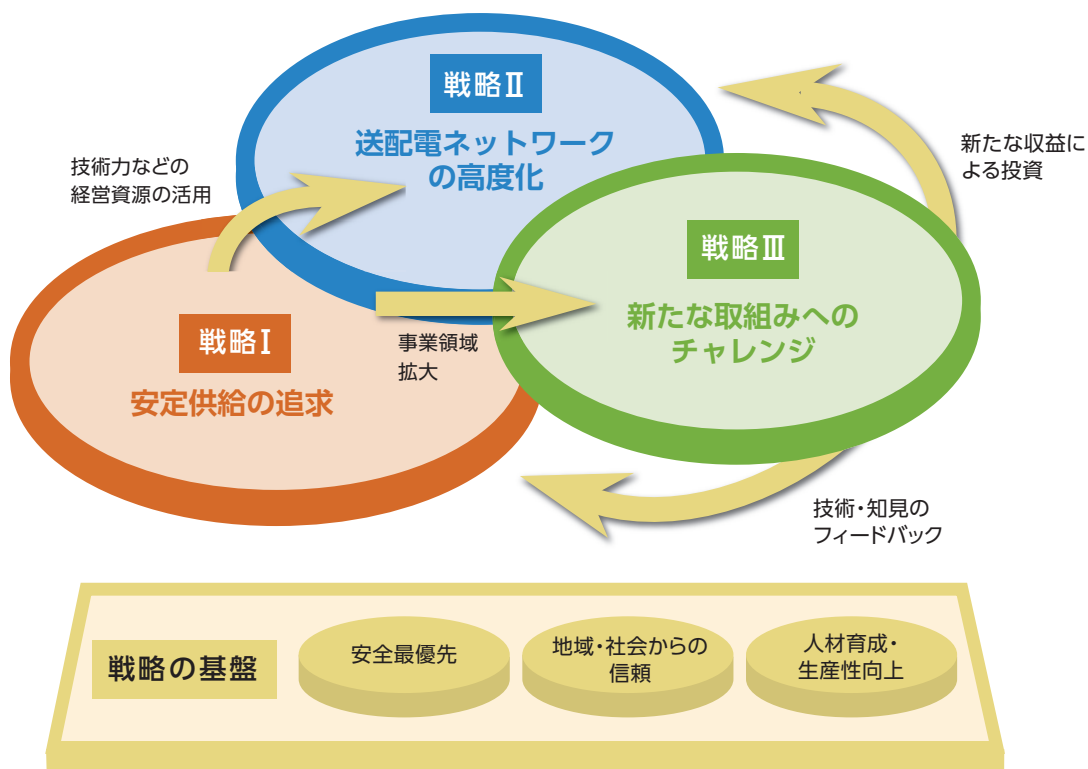


目指す姿の実現に向けた重点戦略

- 当社を取巻く環境の変化や、地域社会を始めとするステークホルダーの皆さまからの期待・要請を踏まえ、以下の3つの戦略を重点的に実施していきます。

戦略Ⅰ 安定供給の追求	低廉で良質な電気を安定的にお届けし続けることを通じて、お客さまや社会の安心と信頼を築いていきます
戦略Ⅱ 送配電ネットワークの高度化	分散型エネルギーの普及など多様なニーズに対し、最新技術を活用した送配電ネットワークの高度化により、お客さまや社会の期待に応えていきます
戦略Ⅲ 新たな取組みへのチャレンジ	電化の推進や新たな事業・サービス創出を通じて、お客さまの豊かさ向上に貢献していきます
戦略の基盤	事業継続に必須となる安全最優先や人材育成・生産性向上に取り組んでいくとともに、地域・社会の皆さまとの共生を通じて信頼を得られるよう努めていきます。

戦略展開イメージ



戦略Ⅰ

安定供給の追求

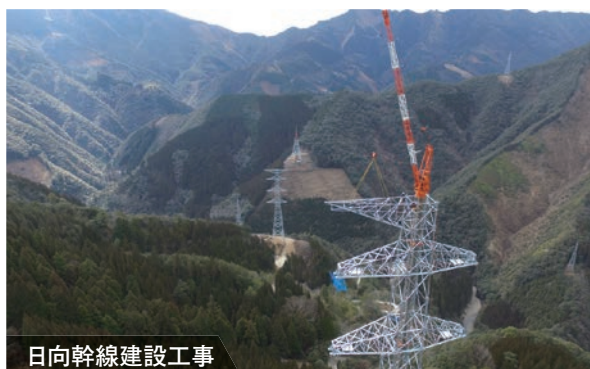
当社事業の根幹となる域内送配電事業において、公平性・透明性・中立性の高い事業運営を前提に効率化を図りつつ、お客さまの豊かな暮らしや産業を支える生活基盤としてのインフラ整備を進めていきます。



1 電気の安定供給を通じて、お客さまからの信頼を高めます

- 九州エリアの送配電設備、離島発電設備などを適切に保全・運用し、お客さまに品質の高い電気を安定的にお届けし続けます。

また、お客さまとの契約に関する問合せ対応や検針、料金計算など関連業務にも丁寧に対応していきます。



日向幹線建設工事



内燃力発電所(離島)

点検作業の様子

- 台風や地震等の非常災害時には、九電グループの総力を挙げて対応体制を速やかに構築し、迅速・正確な情報発信や停電の早期復旧に取り組みます。

また、防災の観点から、引き続き、災害に強い設備を作っていくとともに、国・自治体と協働での無電柱化など、災害に強いまちづくり、レジリエンス(強じん性)向上に貢献します。



九州北部豪雨対応

- 送配電設備の建設にあたっては、自然・社会環境等との調和や理解促進のための対話を通じて、設備を受入れてくださる地域の皆さまとの共生・共存に取り組めます。



モノポール(環境調和型 送電鉄塔)



環境調和型変電所

2 効率化を推進します

- 高度経済成長期に大量に建設した設備の高経年化に対し、最新の余寿命診断の知見を活用して適切に維持・改修します。
- 人口減少や分散型電源の普及拡大等も踏まえた効率的な設備への転換を進めます。



超音波による金属柱の劣化診断

- 他の送配電事業者との資機材仕様の統一や共同購入など、調達面を始めとしたコスト低減に取り組めます。
- お客さまへのサービスレベルの維持に努めながら、ICTの活用などにより、業務全般にわたる効率化を推進します。

22kV配電線路用がいし

	現行品	導入品
外 観		
材 料	磁 器	ポリマー（シリコン）
重 量	11.0kg	1.5kg
コ ス ト	1	約2/3

軽量化

コスト低減

3 地域社会との共生、安全最優先の徹底、技術力の継承・向上に取り組めます

- 九州全域に設備を保有する企業として、地域密着型の活動を通じて、お客さま・社会からの信頼向上と地域が抱える様々な課題解決に努めます。
- パートナー企業を含め、全ての職場が災害を発生させないという強い決意を持ち、安全意識の向上、安全行動の徹底に取り組めます。
- 次世代を見据え、これまでに蓄積してきた技術力の継承及び人材の育成、組織力の向上に取り組めます。
- 多様な人材が、自分が望む働き方（ワークスタイル変革）を通して経験や能力をいかに発揮し、やりがいと成長を実感できるとともに、生産性の高い職場風土を構築します。



清掃活動

戦略Ⅱ

送配電ネットワークの高度化

再生可能エネルギーの急速な拡大や蓄電池・EVの普及などを始め、ネットワーク利用に関する多様な社会的ニーズに応えられるよう、IoTの活用など技術開発を推進し、ネットワークの高度化を進めます。

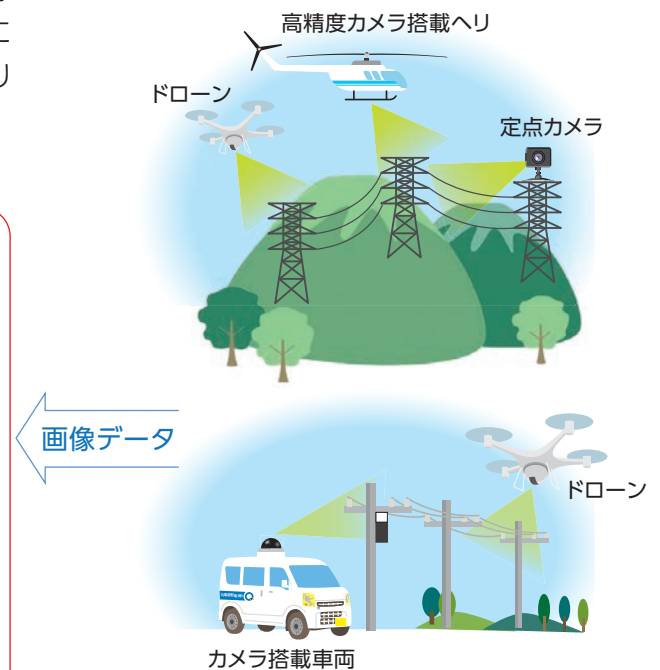


1 最新技術等を活用した技術開発により、 送配電業務の更なる効率化・高度化を推進します

- ドローン、車載カメラ等を活用した設備情報の効率的な取得や、画像解析技術及びAI等を活用した劣化判定手法の研究及び開発により、設備保全業務の効率化・高度化に取り組みます。



◆設備点検の効率化・高度化



- ウェアラブルカメラ等を活用し、リアルタイムでの現地情報の共有や事務所からの技術支援等により、作業の省力化と作業者の安全性の向上に取り組みます。
将来的には、作業をロボット等で代替することも検討していきます。



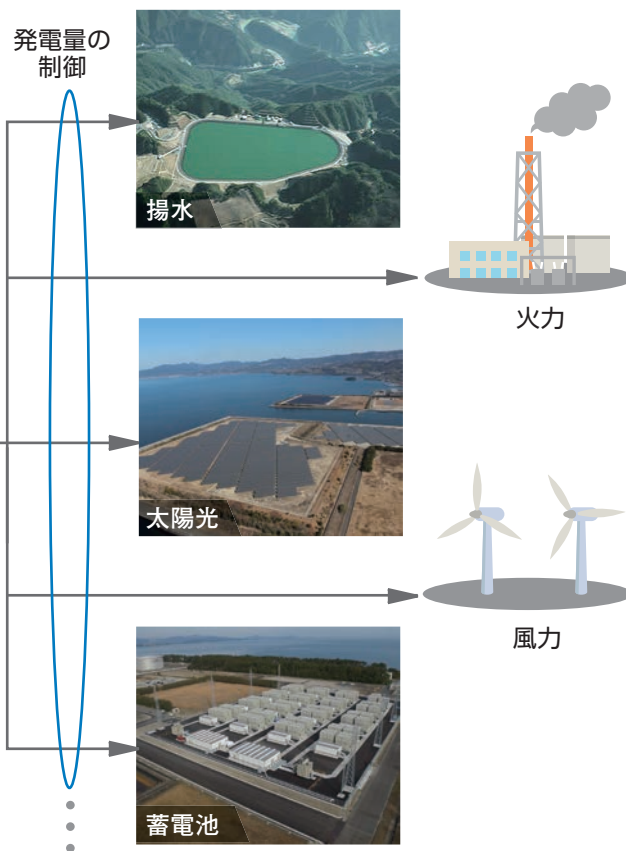
◆現地作業の省力化と安全性の向上



2 送配電ネットワークの最大限の活用により、再生可能エネルギーの一層の普及に貢献します

- 再生可能エネルギーを最大限受入れるため、連系線、揚水発電や大容量蓄電池の活用、及び再生可能エネルギー出力の予測精度向上など、需給運用の高度化に向けて継続して取り組みます。

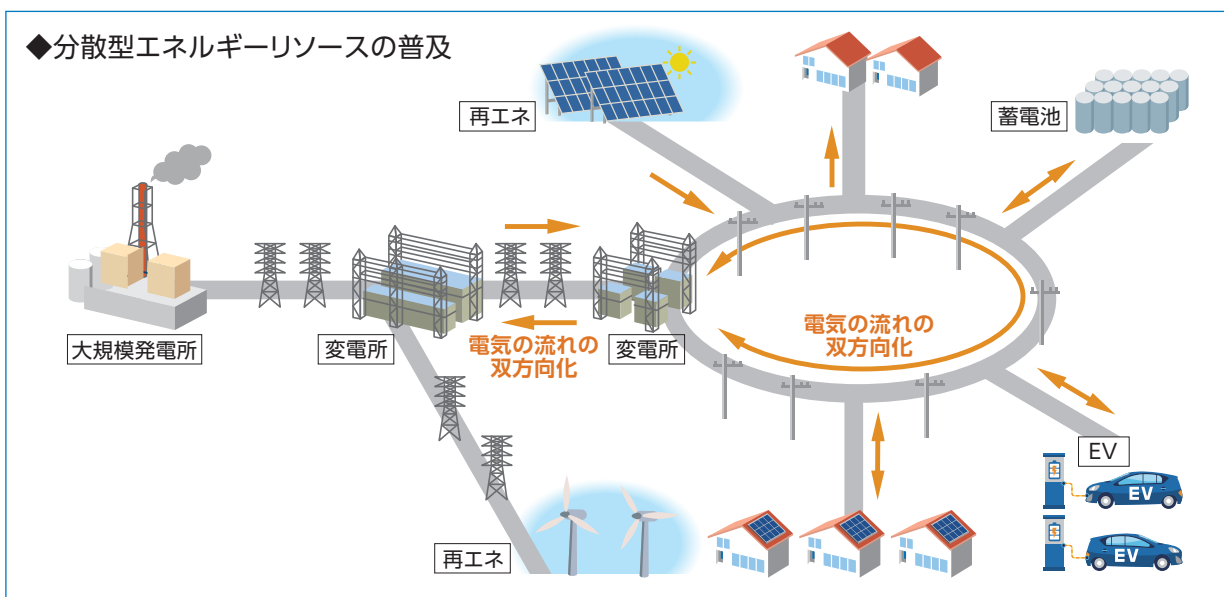
◆需給運用の高度化



3 分散型エネルギーの将来的な普及を見据え、送配電ネットワークの高度化を推進します

- 再生可能エネルギーや蓄電池・EV、需要家サイドでの電力調整など新たな分散型エネルギーやサービスの将来的な普及を見据え、それらを支えるための基盤をしっかり作っていきます。

◆分散型エネルギーリソースの普及



戦略Ⅲ

新たな取組みへのチャレンジ

域内の託送電力需要創出に加え、送配電事業外においても、当社及びグループ会社でこれまで培った他社に先行する技術や資産等を活用したビジネスに挑戦し、地域・社会の課題解決に貢献します。

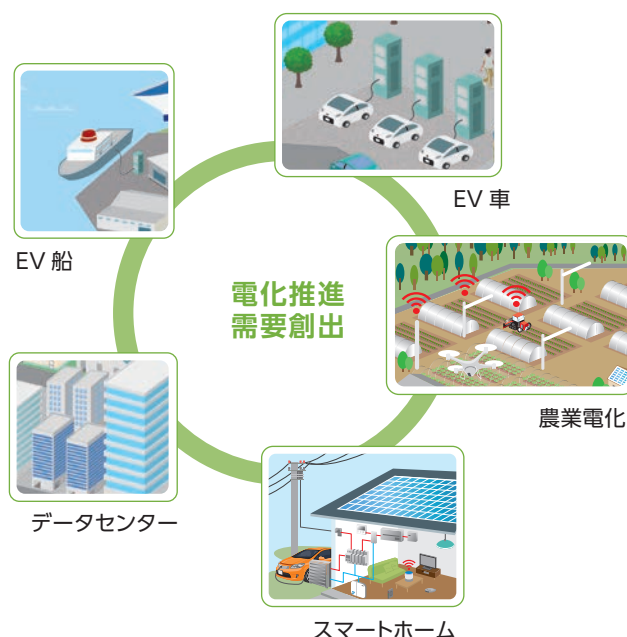


1 電化の推進や企業誘致を通じて、低炭素社会の実現と九州の発展・成長を目指します

- 民生部門、産業部門だけでなく、運輸部門を含めたあらゆる分野での電化を推進し、化石燃料への依存度を低下させることで、お客さまの快適な暮らしと低炭素社会の実現に貢献していきます。
- 自治体との連携を通じた企業誘致や、お客さまとの様々な接点を活かした電化推進活動により、九州エリアの電力需要を創出し、九州の発展・成長に貢献していきます。



電化推進活動の一例（電化フェア）



2 新たな事業・サービスを創出することで社会的課題の解決に貢献します

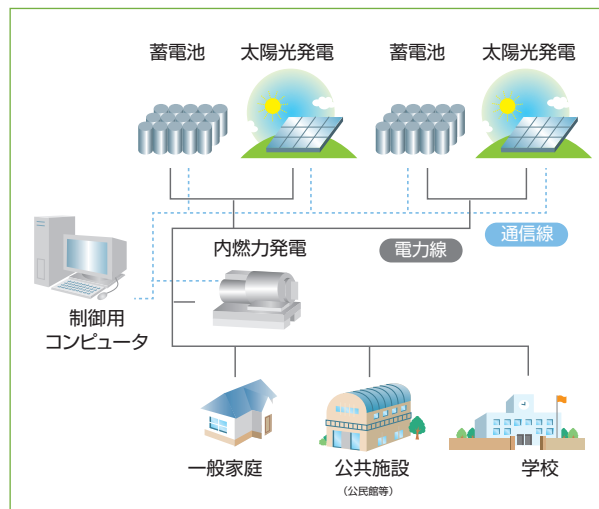
- 当社保有の資産・データ等と異業種ノウハウとの掛け合わせ等により新たな価値を創出し、電気事業以外の領域への事業展開に取り組んでいきます。
- 送配電事業で培った保全技術や知的財産を活用し、他業界を含め、多様なお客さまに新たなサービスを提供していきます。



3 国内送配電事業で培った技術力等を活用し、海外事業を推進していきます

- 九州で培った再エネ大量導入等の経験を活かし、再エネ導入に伴う系統運用の安定化・効率化に関する技術支援など、海外でのコンサルティング事業を展開していきます。
- 九電グループ内外のパートナーとの協業により、海外におけるマイクログリッド事業、送配電事業などの事業開発・運営に積極的に参画していきます。
- 海外事業展開で培ったノウハウや人材育成の成果を国内事業にフィードバックし、九州の持続的発展につなげていきます。

◆再エネを活用したマイクログリッドのイメージ



◆九州電力送配電の概要

- 設立年月日
2019年4月1日
- 事業開始年月日
2020年4月1日
- 資本金
200億円
- 供給地域
福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、
熊本県、宮崎県、鹿児島県
- 資産総額
18,000億円(概数)
- 従業員数
5,400名(概数)
- 電力供給設備(2019年3月末現在)
内燃力発電所(離島) 30か所(31.1万kW)
水力発電所(離島) 5か所(3,723kW)
風力発電所(離島) 1か所(250kW)
変電所 597か所(7,509.2万kVA)
送電線路こう長 10,803km
配電線路こう長 142,223km

九州の電力系統図 (主な発電所と送電線)

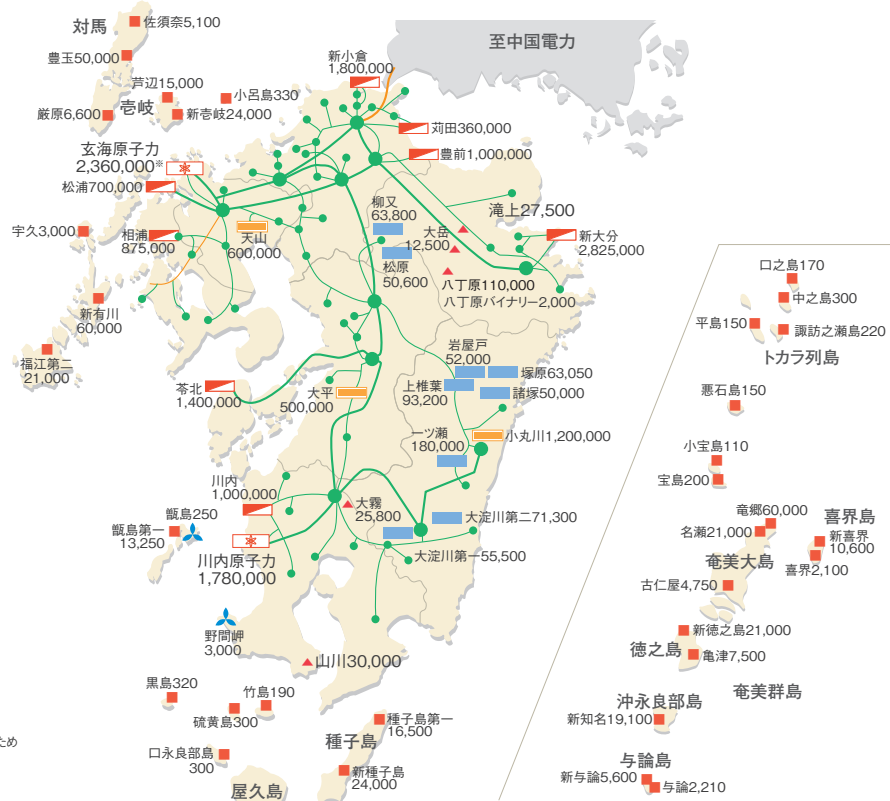
(2019年3月末現在)

凡例

- 水力発電所 (5万kW以上)
- 揚水発電所
- 火力発電所
- 原子力発電所
- ▲ 地熱発電所
- 九州電力送配電の設備
- 内燃力発電所(離島)
- ▲ 風力発電所(離島)
- 主要変電所、開閉所
- 50万V送電線
- 22万V送電線
- 他社設備

発電所の数値は出力(kW)を示す

※玄海2号機は、2019年4月に運転終了のため3・4号機の出力を記載



※ この資料は2020年3月以前に作成しているため、一部の写真において、九州電力(株)の作業服やロゴマークが写っている場合があります。

(参考) 2030年の九州と九電グループ



九電グループは、「ずっと先まで、明るくしたい。」というブランドメッセージのもと、豊かで快適な生活につながるエネルギーサービスをお届けするとともに、新たな技術の活用や他社とのアライアンスなどを通じて、社会的課題の解決に貢献し、地域・社会と共に九州から未来を創っていきます。

当社も九電グループの一員として、電力を安定的にお届けすることはもとより、次世代に向けたビジネス創出や、安全・安心なまちづくりなど、「九州をむすび、未来へつなぐ」事業活動に取り組んでいきます。





九州電力送配電



ずっと先まで、明るくしたい。